

英語科学習指導案

日 時 平成 20 年 7 月 4 日(金) 1 校時
学 級 3 年 2 組 男子 19 名 女子 15 名 計 34 名
授業者 奈 良 圭 悟

1 単元名 Unit3 “Our Sister in Nepal” (NEW HORIZON English Course 3)

2 単元について

(1) 生徒観

3 学年の生徒は、英語の学習に対して消極的な生徒が多い。一年前は、人間関係の希薄さから、ペアやグループでの活動をするのが難しかったことや、意欲的に授業に臨むことができない生徒が多かったことで、授業が上手く進行しないことが多かった。また、単語や文法があまり定着していないこともあり、書くことを嫌がる生徒が目立った。そこで授業中は、書く活動を多く取り入れることにした。時間がかかっても書けたことを認め、次につなげられるように意識した。各学期末には、場面を設定して「書く」活動を導入し、評価をするようにした。現在もまだ課題は残されているが、書くことを嫌がる生徒が激減し、自分の書いた内容を見てもらおうとアピールする生徒も増えてきた。このことは、英語を多く書いてきたことで、生徒の単語や文を書く力も向上し、理解しようとする意識が高まってきたための変化と考えられる。

3 年 2 組は、間違いを恐れずに積極的に発言できる生徒が増えてきたことで、明るい雰囲気です授業を進めることができるようになってきた。本時は、自分たちで作った英文を、グループの中で発音の確認をしたり練習したりすることの楽しさを感じるきっかけにしたい。更に、自分が英語を話したという達成感を少しでも味わうことのできる時間にしたいと思う。

(2) 教材観

ネパールの国と交流がある若葉市の公民館に、フォスタープログラム(かわいそうな子供を助ける事業)でのバザーのお知らせが貼り出された。このバザーの目的を説明したパンフレットには、家事のために学校に行けない女の子を支援したいという内容が書かれている。バザーで集まったお金を送ると、若葉中学校にその女の子からお礼の手紙が届く。基本文として現在完了の完了用法と経験用法、不定詞を本文の中に含んだ内容である。

この内容を受けて、ネパールの国の様々な事情や知識とともに、海外の学校に行けない子どもたちの背景も伝えることで、日本とはちがった問題があることを生徒に知ってもらえると思う。また、現在完了の2つの用法や不定詞は、普段の会話の中でも使われていることから、身近な場面設定がしやすいので、2 学年時に学習したことを復習しながら、授業の中での活動の工夫をしていきたい。

(3) 指導観

現在完了については、「～をしたことがある(ない)」「～をしてしまった」という、身近な場面設定がしやすい用法のため、Unit 2 で学習した継続用法を復習しながら、しっかりと現在完了のそれぞれの文型を定着させたいと思う。また、「過去分詞」は今後、後置修飾でも使う形なので、過去形との区別をしっかりと指導して、できるだけ理解を深めさせておきたい。

不定詞は「～をするための…」という有用度が低い用法と、「～ができてうれしい」などの場面設定がしやすい用法の2つを学習する。形容詞的用法については、2 学年で学習した不定詞を復習しながら、意味や使い方の違いに着目して指導したい。原因を表す副詞的用法については、形容詞と結び付けて、自分の気持ちを表す言い方として、反復練習や暗唱などを繰り返して定着を目指したいと思う。

本文内容を受けて、国際協力の話、発展途上国の様々な問題に触れながら、国際理解の知識を深めさせたいと考えている。

3 「自分の思いや考えを見つめさせ、自分を変えさせていく学び方」の構想

(1) 「自分を見つめさせる」場のあり方

英語科において「自分を見つめる」ということは、様々な段階が考えられる。例えば、「簡単な単語が読めるようになった、書けるようになった、聞き取れるようになった」などのように、自分自身の知識や技能の変容に気づくという記憶や認知等の直接的な strategy のレベルがある。更に、「自分の知識をもとに、相手にわかりやすく伝えることができる」というコミュニケーションでのレベルの段階もある。その上の段階では、「自分自身で学習目標や学習計画を設定し、自分の学習をきちんと評価することができる」というレベルも考えられる。

本単元では、経験や完了の現在完了や、不定詞の形容詞的用法、副詞的用法を用いて相手に質問したり、応答したりすることで簡単な会話ができることであると考える。場面に応じて適切な単語を使いながら表現活動をすることで、自分の周りの人たちがどんなことを言ったり書いたりしているかを理解させたい。また、自分の考えを正しくまとめて書くことで、より深く考えを見つめさせたい。

(2) 「自分を見つめる」評価のあり方

1時間の学習の中で、新しく学んだことやわかったことなど、振り返りとして書かせることで、自分自身のその日の学習を見つめることができる。自分の学習した内容を分かりやすく蓄積すること、分からなかったことを書き留めておくことも自分自身の学習過程を振り返り、次につなげることになる。また、学習シートをチェックして返却することで、単元で学んだことを振り返らせたい。

自己評価に加えて、教師や他の学習者からの評価も自分の学習状況を確認するためには欠かせないものであるため、必要な場面では他者からの適切な評価を授業の中に組み入れていく必要がある。学習内容についてだけでなく、不安を軽くしたり、勇気づけたりするなどの情意的な言葉のやり取りも、英語学習においてはとても効果があるということを生徒にも意識付けていきたい。

4 単元の評価規準と指導の重点

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化の知識・理解
英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。	現在完了の経験や完了の表現を用いて、簡単な対話をしたり、英文を作成したりできる。 不定詞を用いて、自分のことを表現できる。	フォスタープログラムや、バザー、お礼状などのまとまった文章の内容全体を把握することができる。	現在完了や不定詞の文を、正確に書いたり読んだりすることができる。 ネパールの国の事情や、海外の学校に行けない生徒の背景を知る。

5 指導計画

Unit 3 Our Sister in Nepal

5時間+関連の表現活動2時間

本時 6 / 7

時	パート	文法事項	時間数
①	Starting Out	現在完了(経験)	1
②	Dialog	現在完了(完了)	1
③	※表現活動①	期末評価のための「スキット作り」	1
④	Reading for Communication	不定詞(形容詞的用法)	1
⑤	R for C / Listening+3	不定詞(原因を表す副詞的用法)	1
⑥	※表現活動②	「スキット作り」の発表	1 本時
⑦	Unit 3 まとめ		1

6 本時について

(1) 目標

- ① グループ内で読み方を確認し合い、みんなで一つの作品を発表することができる。(関意態)
- ② 自分の文に抑揚や身振り手振りなどをつけて話すことができる。(表現)
- ③ 発表者が言っていることをできるだけ理解し、お互いの良い点を評価することができる。(理解)

(2) 指導の構想

本時は、現在完了(完了)までに学習した文法事項を使用して作成したスキットの発表を行う。これは、昨年度から計画的・継続的に行っている「書くこと」の評価のために行ってきた活動である。本時までの流れは次の通りである。

- ・ 4～6人の生活班で話し合い、場面や話題を自由に設定する。(現在完了表現は必須条件)
- ・ 90秒程度のもので、今回は一人最低2つのセリフが入ること。(小道具の持参も可)
- ・ 班で台本を作成し、教師の簡単な添削を加える。

生徒がグループで話し合っ作成したスキットを発表するために、グループ内で読み方などの確認をして完成させる。発表者は暗記を目指し、抑揚や身振りをつけ、場面に合った話し方をさせたい。発表を聞く生徒は、発表内容や発表者の良さ、頑張りなどを見つけてメモをとり、感想として発表できるようにする。発表後は自己評価を行い、今後のグループ活動につなげていけるような事後指導をしていきたいと考えている。

本時の発表の中には、文法的な間違いや、不適切な単語も出てくると思われる。しかし、グループ活動が困難だった生徒たちが、一つの対話文を作り、工夫を加えて発表できたことを自信として、英語の学習の楽しさを少しでも感じ、今後の活動の更なる活性化につながれば幸いである。

(3) 具体の評価規準

	概ね満足できると判断できる状況 (B)	十分満足できると判断できる状況(キーワード) (A)	努力を要する生徒への支援の手だての例	評価の方法
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の活動に参加しようとしている。 ・自分の文に工夫を加えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極性 ・教える ・質問する ・工夫 ・意欲的 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の声かけ ・読み方などの具体的な援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動(机間観察) ・班ごとの発表(発表)
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに表現して、文を発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫 ・表現力 ・声の大きさ ・一生懸命さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとの発表(発表・行動観察)
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いた英文の内容を聞いて、概ね理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確さ ・要約 ・良さをみつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードに注意させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとの発表 ・感想の発表(机間観察・行動観察・プリント)
言語や文化に対する知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・設定した場面の会話表現が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・暗記 ・正確さ ・独特な表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動 ・班ごとの発表 ・自己評価(行動観察・プリント)

(4) 展開

学習過程	学習内容と学習活動	教師の指導・支援	留意点・備考
1 課題作り	1 教師のデモンストレーションや説明などを聞くことで、発表のし方を確認する。	1 ・本校英語科教諭とのデモンストレーションを行う。 (発表のし方として、良い例・悪い例を示す) ・内容確認の簡単な質問。 ・発表の仕方の説明。	
2 課題を設定する (7分)	2 課題提示により、本時の学習目標を把握する。	2 本時の課題を提示する。	
内容が伝わるような表現のし方を工夫して、 グループ発表をしよう			
3 自分を見つめる	3 自分が担当するセリフを読み、読めない単語などを確認する	3 スキットを返却し、自分の担当する部分を確認させる	※添削したものを返却
4 交流する	4 班ごとに英文の読み方や動きなどをアドバイスし合うことで、自分の役割を明確にする。	4 机間指導により、活動を確認しながら助言する	評価：関意態
5 考えを構築する	5 ジェスチャーや抑揚などの表現をつけることで、発表の意識を高める。更に、暗記にも挑戦させる。	5 抑揚やジェスチャーの助言をしながら机間指導をする。	評価：表現 関意態
6 課題を追求する (37分)	6 ・聞き手は内容を聞いて、発表者の良さをメモする。 ・班ごとの発表をする。 ・感想の発表をする。ことで、他の生徒たちの良さを確認し合う。	6 ・プリントを配布し、発表者と聞き手の役割を説明する。 ・班ごとに発表させる。 ・相手の良さを認めるような感想を発表できるようにする。	※プリント 評価：表現 関意態 理解
7 ふりかえる (6分)	7 自分の班の中での役割を考えながらプリントに記入することで、本時の活動を振り返る。	7 ・自己評価させることで、自分の英語を言うことに対する変化を見つめさせる。 ・プリントを回収する。	※プリント

【B5 版 表面】

○各班の発表を聞きながら，メモをとりましょう。

名前 _____

班	場面や内容について (どんなことを言っているのかを 聞き取って，書いてみる)	良かった所 (セリフの言い方，声の大きさ， 場面に合った言い方など，何でもOK)

【B5 版 裏面】

○自分の班の発表はどうでしたか？ (苦労したこと，工夫したこと，良かったこと，もっとこうしかったな…など)

○班で英語の学習をしたことはどうでしたか？ (もっと授業でやってほしいとか，具体的に)

○英語を学級の人たちの前で発表できた自分のことをどう思いますか？